

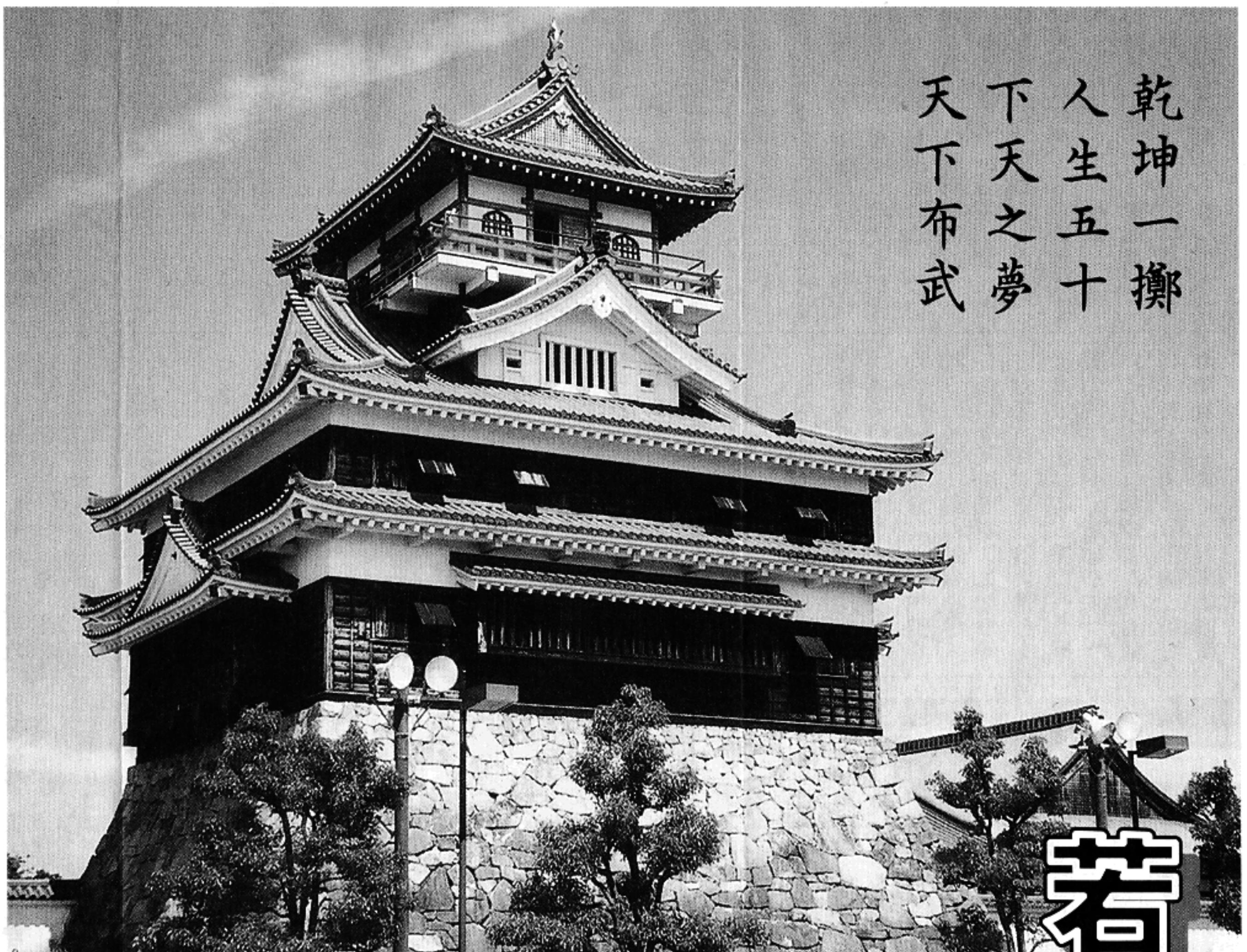
## 第2号

## 蒲田風箏



すばる

発行所  
(株)鳥久  
東京都大田区蒲田1-8-12  
電話 03(5703)7575  
発行人 小原秀之  
印刷所 三盛商事(株)



清洲城天主(守) 閣<復元> 戦国時代の清洲の町は人口6万人の大都市として大いに栄えた。尾張の中心都市として大小の河川が集まるデルタ地帯にあり、信長の桶狭間の戦いはこの城から出撃した。はるか西方には美濃の山並みが望まれる。

ただ少し普通でないところは、町並みの中に大きな古い屋敷や土蔵がところどころに見られたり、樹齢数百年の大銀杏の樹があつたりするところだ。さらに町の奥まつたところには朱塗りの立派な津島神社が鎮座している。

ここが末社三千ともいう津島神社の總本社なのである。毎年七月末にはこの神社の「天王祭」という夏祭が神社の前の川で催され、大きな川船が提灯で飾り立てられて夜の川面に美しく映える姿は見事だといえる。

この「天王祭」にその昔、若き日の信長が見物に来て、そして家来衆とともに仮装して踊ったという話が地元に伝わっている。

信長という人間は、大好きなもののが三つあった。それは、踊り好き、相撲好き、そして茶の湯好きだった。酒はほとんどいた

信長の祖父の代からこの津島衆と深く結びつき、織田家の財力を支える役割をしたのだ。

さてこの津島という町だが、その昔は「信長の台所」といわれた。つまりパトロンともいえる津島衆たちが自治支配する湊(みなと)町であり、門前町として大いに栄えていたのだった。

### 津島は情報が集まる オペレーションセンター

津島は情報が集まる

しなまず、声は少々甲高く、無駄話を嫌い、髭は薄く、早寝早起き型の生活で即断即決の性格だったと、当時のキリストian宣教師たちは書き記している。茶の湯については後に政治の道具として大いに利用し、権力と財力を駆使して天下の茶の道具を集めたのだが、元々は

小さな時からのお守り役であつた平手政秀らがかなりの風流人であったことの影響が大きい。そのせいとはいえないが津島といいう町は、なんと愛知県でいちばんの抹茶消費量を誇るという。

津島が當時、堺、薩摩の坊ノ津、越前の三国湊と並んで日本有数の湊町だったことを今知る人は少ない。堺は南蛮貿易、

し、下剋上の戦国時代にあってメキメキと実力を蓄え、父信秀の代になつてその軍事力と財力は相当なものとなり、戦国大名の様相をもつ実力者にのしあがつていった。

しかし、尾張二国が信長によつて平定されるのはまだ先のことであった。

津島は木曽川河口に近い川湊である。木曽川上流には豊かな森林資源があり木材の集散地でもあった。今でも筏場町という町名が残つていても分かるが、木材は城郭や寺社、そして船を造るのにも必要な基幹資源だった。

一方で津島は伊勢湾にも面し、海民との密接なネットワークの基地でもあり、海の道を通して情報の集積地でもあった。この海の道の情報と、門前町として参詣人が集まる陸の情報

# 若き日の信長を歩く その合理的な癡想の秘密を探る

乾坤一擲  
人生五十  
下天之夢  
天下布武

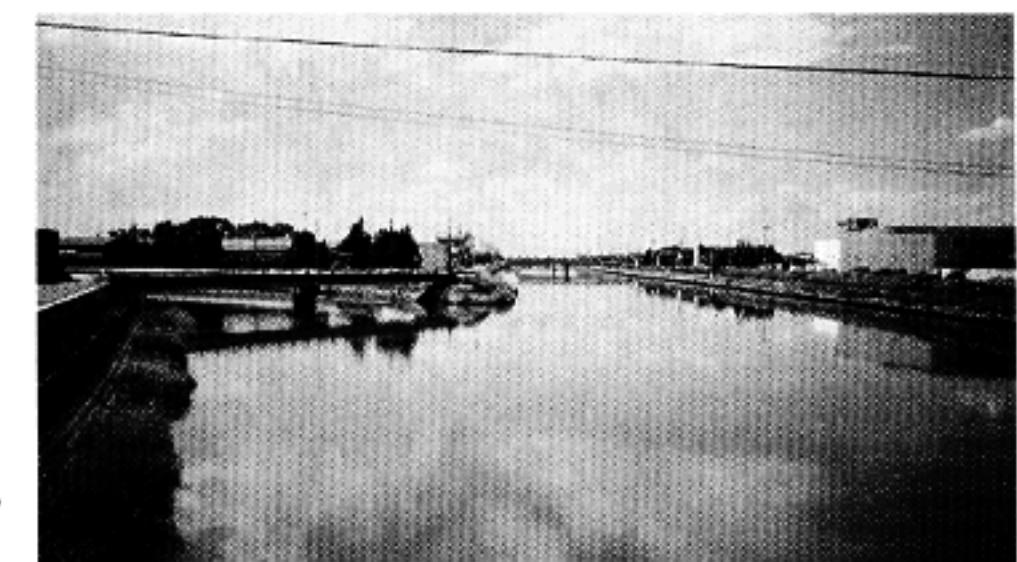
坊ノ津は古代においては遣唐船が船出し、鑑真和尚も上陸した港であり、雪舟もここから中国へ旅立つた大陸の玄関口だつた。三国湊は朝鮮、中国貿易の拠点として当時の戦国大名朝倉氏の屋台骨を支えた港だつた。

津島は、木曽川河口に近い



津島神社(津島市・朱塗りの門は重要文化財指定)。中世の湊町として栄えた津島のシンボル。神社の前の川で練り広げられる「天王祭」は津島衆の財力を誇示するものだった。

もっている。それを育てるスペースと時間、つまりはなくなってしまっている。昔はそれが自然に生活環境にあり、大人とも交流できたものだった。人は何かで認められない精神的には生きられない。子供は大人以上にそのことについて敏感なはずだ。



勝幡城址。二本の川が合流する右手一帯が、信長の生まれた城館があったところ。

名古屋市に本拠地を構えたが、この地もデルタを利用した城構えだつたと思われる。人口は六万人を数えていたといふ。清洲城下は尾張第一の都市として栄え、この城から信長は桶狭間の戦いに出陣したのだつた。はるか西方には美濃の齊藤道三がにらみを効かす稲葉山城（岐阜県）のある金華山が望まれ、信長の美濃侵攻の野望をそそつたに違いない。

信長は清洲城から美濃攻めのために小牧山城に本拠地を移し、そしてついに稻葉山城を落とし、城下を岐阜と改める。同時に、有名な公式文書に捺印される「天下布武」印をこの時から使い始める。ちなみに岐阜は、古代中国・戰国時代、周の文王が殷（商）を倒し、岐山に登って詔を発した故事に由来して命名された。

信長は後に名古屋市の西方に富んだ小者の男がいた。後に秀吉はここで信長に出会い、信長に推挙したのも吉乃だつたようだ。

秀吉（当時は藤吉郎）も墨俣城、後に一夜城と呼ばれる造営の電撃作戦を成功させることができたのも彼ら川並衆の力に依つたからだつた。

戦争というものは、いつの時代も利権獲得の争いである。今のアメリカのイラク侵攻も狙いは経済の血液というべき石油にあることは周知のことである。

信長の正室に吉乃という女性がいた。長男信忠と次男信雄、一女の徳姫をもうけた後、産後の肥立ちが悪く三十代半ばで早逝してしまつたが、信長が愛してやまなかつた女性である。その証拠に織田姓を名乗つたのはこの二人の男子だけだつた。その死に際して信長は涙を流したとも伝えられ、父信秀の葬儀の際には抹香を投げつけた同じ人物とは思えないほど細やかな情をほどこしている。

信長は、津島がもつ木曾川の権益と海の権益を背景に美濃を手に入れた。美濃はさらなる山の権益と日本海と太平洋を結ぶ要衝の地であり、安土は東西南北の十字路を押さえるヘソというべき地である。信長の足跡をたどると、それはまぎれもなく経済戦争、ひいては構造改革の戦いだつたことがみてくる。

その非情ともいえる為政者としての合理性は企業經營者としてみると分かりやすい。吉に対する細やかな情は人間動乱の時代になぜ尾張の地に信長のような人物が出現したのか。それは個人の資質もさることながら、その形成に大きな影響を与えた商人たちの合理性と機敏性、先見性を見逃すことはできない。信長は商人たちの利権代表という

尾張のこの一帯は、木曽川、揖斐川、長良川の三つの大きな河川の合流するところであり、巨大なデルタ地帯でもありました。津島のすぐ東に勝幡（しょばた）城があり、今は草に埋もれるばかりだが、信長はこの城で生まれた。当時の城には天守閣ではなく、自然の河川を堀とした山城に対して川城ともいうべき城館のような構えだつたと想像される。この辺りの大小の河川は最近まで伊勢湾から船が出入りし、物資を運んでいたといふ。

海拔ゼロメートル地帯は、天然の要害だつたせいか、江戸時代になつても東海道はこの地を避けて、熱田宮から桑名まで唯一海路をとつていた。蜂須賀の三党だった。美濃に

吉乃の墓（江南市）。生駒家当主と並ぶいちばん右が信長室吉乃の墓で、信長の居た小牧山城の方角を向いている。

そして将軍足利義昭を擁して上洛の途につき、安土城を造営する。このように次々とその本拠となる城を移した戦國大名は信長以外に例をみない。

信長が勝利に導くのは、財力と情報であるが、當時尾張の兵は美濃に比べると格段に弱かつた。信長は、その劣勢を補うために大量の鉄砲を導入した。それを可能にしたのは財力であり、一方の情報を支えたのは川並衆と呼ばれた野武士集団の土豪たちであつた。その代表は木曽川の中流域に本拠地をもつ、生駒、前野、

吉乃の墓（江南市）。生駒家当主と並ぶいちばん右が信長室吉乃の墓で、信長の居た小牧山城の方角を向いている。

お盆の正式な呼び方「ウラボン」

お盆は先祖の精霊を迎えるための供養をする期間だ。お盆の行事はお盆迎えの弟子の一人、目連尊者（もくれんそんじや）が母を救う次のような話に由来している。

ある日、目連尊者は亡くなつた母のことが気になり、神通力での世を探つた。

そして、あわれた姿になつている母の姿を見つける。

ところでお盆の正式な呼

び方を「ウラボン」という言葉を慰めたり、お盆の供養で成仏できた人たちの踊り喜ぶ姿を表現するところから生まれたのである。

お盆迎えに「母親を助け下さ」いと頼んだ。するとお盆迎えさまは「夏の修行が終つた七月十五日に僧侶を招き、多くの供物をささげて供養すれば母を救うことができるであろう」と教えられた。目連尊者はその教え通りに供養し、母を苦しみの世界から救つたといふわけだ。

ちなみに人間は死後、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上界の六つの世界に生まれ変わるが（六道輪廻）、目連の母は餓鬼の世界で苦しんでいたのだつた。このお地蔵さんが見守ってくれる。だからお墓には、たいへん六地蔵が祭られている。

お盆の語源は、サンスクリット語でウラボンと言う言

葉からきていた。その音写の意味は「逆さまに釣り下げられるような苦しみにあつてゐる」という意味だ。

先祖がもし苦しみの世界（地獄・餓鬼）に落ちていたら、救つてあげようというのがお盆の意味なのだ。盆踊りも、お盆にもどつてきた精神を慰めたり、お盆の供養で成仏できた人たちの踊り喜ぶ姿を表現するところから生まれたのである。

お盆は先祖の精霊を迎えるための供養をする期間だ。

お盆の行事はお盆迎えの弟子の一人、目連尊者（もくれんそんじや）が母を救う次のような話に由来している。

ある日、目連尊者は亡くなつた母のことが気になり、神通力での世を探つた。

そして、あわれた姿になつている母の姿を見つける。

ところでお盆の正式な呼





町を歩くと、おりしも羽田神社の祭りの飾り付けがされていた。提灯と万国旗が下町風情を感じさせる。家々に一本一本声かけて紐を渡していくだらう。そんな羽田の祭りにも訪れてみてはいかがだらうか。

一六〇三年に徳川家康が征夷大将軍となり、名実とともに江戸幕府が開かれたため、武士、家族の移住や商業の発展に伴う大量の人口増加が予想され、食料の確保が

にぎり鮨は庶民の文化

さて「江戸前」の話である。

狭義にとれば江戸城前の鰻だけとなり、広義にとれば神奈川県沿岸まで含めた「江戸湾」ということになる。

そこで江戸前にぎり鮨の歴史と照らし合わせてみると、にぎり鮨の始まりは定かではないが、活況を呈したのは十八世紀後半から、八ヶ浦にかけてからである。

上納されない雑魚（ざこ）を雑魚場で売るようになり、いろんな魚介類が庶民の口に入るようになつた。武土階級や豪商は外食する習慣がなく、屋台にぎり鮨を考え、開花させたのは庶民であつた。新鮮な海の幸を使つた「にぎり鮨」は、まさに江戸前の大門（馬場先門）を埋め立てた際にできた沼地に、焼いて味噌をつけて売り出し、大いに儲けたのが始まりとの説が有力だ。

江戸前鮨の「江戸前」とはどの辺りを指すのだろうか。語源は「江戸城前」であるらしい。家康時代に江戸城前（馬場先門近辺）を埋め立てた際にできた沼地に、鰻が生息するようになり、それに目をつけた鰻屋が、焼いて味噌をつけて売り出し、の説が有力だ。

一六〇三年に徳川家康が征夷大将軍となり、名実とともに江戸幕府が開かれたため、武士、家族の移住や商業の発展に伴う大量の人口増加が予想され、食料の確保が

にぎり鮨は庶民の文化

さて「江戸前」の話である。

狭義にとれば江戸城前の鰻だけとなり、広義にとれば神奈川県沿岸まで含めた「江戸湾」ということになる。

そこで江戸前にぎり鮨の歴史と照らし合わせてみると、にぎり鮨の始まりは定かではないが、活況を呈したのは十八世紀後半から、八ヶ浦にかけてからである。

上納されない雑魚（ざこ）を雑魚場で売るようになり、いろんな魚介類が庶民の口に入るようになつた。武土階級や豪商は外食する習慣がなく、屋台にぎり鮨を考え、開花させたのは庶民であつた。新鮮な海の幸を使つた「にぎり鮨」は、まさに江戸前の大門（馬場先門）を埋め立てた際にできた沼地に、焼いて味噌をつけて売り出し、の説が有力だ。

一六〇三年に徳川家康が征夷大将軍となり、名実とともに江戸幕府が開かれたため、武士、家族の移住や商業の発展に伴う大量の人口増加が予想され、食料の確保が

にぎり鮨は庶民の文化

さて「江戸前」の話である。

狭義にとれば江戸城前の鰻だけとなり、広義にとれば神奈川県沿岸まで含めた「江戸湾」ということになる。

そこで江戸前にぎり鮨の歴史と照らし合わせてみると、にぎり鮨の始まりは定かではないが、活況を呈したのは十八世紀後半から、八ヶ浦にかけてからである。

上納されない雑魚（ざこ）を雑魚場で売るようになり、いろんな魚介類が庶民の口に入るようになつた。武土階級や豪商は外食する習慣がなく、屋台にぎり鮨を考え、開花させたのは庶民であつた。新鮮な海の幸を使つた「にぎり鮨」は、まさに江戸前の大門（馬場先門）を埋め立てた際にできた沼地に、焼いて味噌をつけて売り出し、の説が有力だ。

# 羽田は江戸前？

(羽田その2)

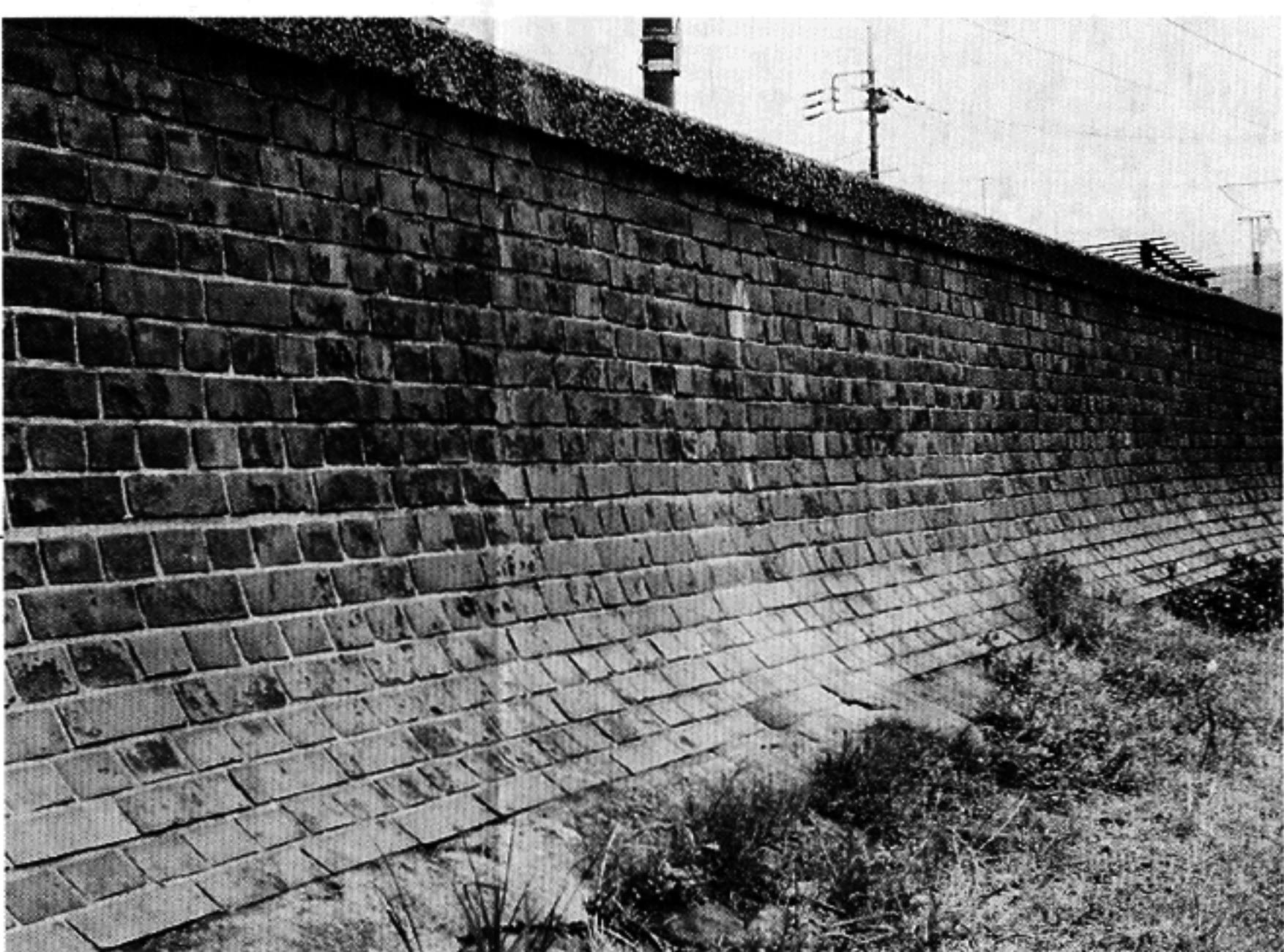
ふらり、下町散歩

急務となつた。海産物は農

産物より手取り早いせいか、即戦力として関西から選りすぐりの漁師を呼び、佃島に村を作らせたりもした。

立派な八ヶ浦の一つの羽

田浦は、多摩川河口に位置し、新鮮な魚介類が豊富に獲れるだけではなく、江戸湾の船運権益を有し、多摩川流域の村々の年貢米などを江戸へ回送する「津だし」を独占して請負っていた（「津」は船着場のこと。船で積み出しが「津だし」）。



羽田は、今でも所どころに昭和初期の煉瓦積みの堤防が残っている。今では町並みに呑まれてしまっているが、現在の無鉄砲な堤防と違って微妙なアールが美しい。

**KEIHIN TENT**  
株式会社 京浜テント

〒144-0052 大田区蒲田1-8-14  
TEL 3733-3561代 FAX 3738-7110  
URL: <http://www.keihintent.co.jp>  
Email: [info@keihintent.co.jp](mailto:info@keihintent.co.jp)

テント・装飾 大型 日除 倉庫 集会用  
看板・カッティング文字 インクジェット  
アクリル電飾 ネオン 金文字  
インテリア・ジュータン カーテン 壁紙  
ブラインド 床 鉄骨金物  
その他・シート カバー 旗 幕 袋物

リフォーム&看板 事業部 快適空間



太崎会計事務所

〒144-0035 東京都大田区南蒲田2-4-15 代表  
東邦本社ビル5F 業務内容  
TEL.03-5480-4561 FAX.03-5480-4561  
HP <http://www.osakikaikai.co.jp/>

大崎 正博  
会社設立 月次監査  
会社決算申告 個人申告  
事業計画 企業・組織再編

創業昭和3年鳥専門の弁当屋

浦田 鳥久

東口店 大田区蒲田 5-16-1  
TEL 03-3738-5736  
営業時間 7時～20時(売り切れ閉店)

鳥久本店 大田区蒲田 1-8-12

TEL 03-3731-5888 (配達受付)  
営業時間 6時30分～18時  
(売り切れ閉店)

サンカマタ地階店 JR駅ビル地下  
TEL 03-3738-0880  
営業時間 10時～20時30分

